

宿題 No.1 - 解答例

2025 年 4 月 28 日

※正答は赤字、解説は青字で印字してあります。

問1 ~ 問8

講義ノートNo.2で使用した女子大生80人の身長に関するデータから以下のような度数分布表を作成する。ノートで紹介した度数分布表では階級幅を5にとっていたのに対し、今回は階級幅を3にとり直している。具体的な階級は、上から順に143~146, 146~149, 149~152, 152~155, 155~158, 158~161, 161~164, 164~167, 167~170（階級“143~146”は「143cm以上146cm未満」を意味する。以下同様）の九つである。また、階級値は各階級の中央値である。この度数分布表の空欄に該当する数値を選べ。もし正答が見つからない場合は、正答に最も近い数値を選択せよ。なお、空欄以外の数値の一部も意図的に空白にしてあるので注意せよ。

まず、空白部分を埋めた度数分布表は次のようになる。

階級	階級値	度数	相対度数	累積度数
143-146	144.5	1	0.0125	1
146-149	147.5	3	0.0375	4
149-152	150.5	8	0.1000	12
152-155	153.5	10	0.1250	22
155-158	156.5	18	0.2250	40
158-161	159.5	16	0.2000	56
161-164	162.5	14	0.1750	70
164-167	165.5	6	0.0750	76
167-170	168.5	4	0.0500	80

問1：① 146 ② 147 ③ **147.5** ④ 149

階級値は階級の中央値であるから、 $(146 + 149) \div 2 = 147.5$ である。

問2：① 158 ② 159 ③ **159.5** ④ 161

問1と同様に考え、 $(158 + 161) \div 2 = 159.5$ である。

問3：① **8** ② 10 ③ 18 ④ 26

この階級の相対度数が0.1000であるから、度数は $80 \times 0.1000 = 8$ である。

問4：① 8 ② 10 ③ **18** ④ 26

問3の結果より、この階級を除く全ての度数の合計が62とわかる。従って、この階級の度数は $80 - 62 = 18$ である。

問5：① 0.0800 ② 0.1600 ③ **0.2000** ④ 0.2400

$16 \div 80 = 0.2000$ である。

問6：① 0.0400 ② **0.0500** ③ 0.0800 ④ 0.1000

$4 \div 80 = 0.0500$ である。

問7：① 39 ② **40** ③ 41 ④ 42

問3～問4の結果より、この階級までの累積度数は $1 + 3 + 8 + 10 + 18 = 40$ と求められる。

問8：① 70 ② **80** ③ 90 ④ 100

最大の階級までの累積度数はデータ数に等しい。

問9～問14

以下の空欄に該当する数値を選べ。もし正答が見つからない場合は、正答に最も近い数値を選択せよ。

次の度数分布表には階級値および累積度数のみが与えられている。データ数は（問9）であり、階級値が26である階級の度数、相対度数、累積比率はそれぞれ（問10）、（問11）、（問12）である。また、この度数分布表から計算した平均、分散はそれぞれ（問13）、（問14）である。

まず、度数、平均・分散の途中計算を書き加えた度数分布表は次のようになる。

階級値(a)	累積度数	度数(b)	(a×b)	偏差(d)	偏差2乗 (e = d ²)	(e×b)	
2	3	3	6	-16	256	768	
6	8	5	30	-12	144	720	
10	14	6	60	-8	64	384	
14	24	10	140	-4	16	160	
18	36	12	216	0	0	0	
22	46	10	220	4	16	160	
26	52	6	156	8	64	384	
30	57	5	150	12	144	720	
34	60	3	102	16	256	768	
合計(c)			1,080	合計(f)			4,064
平均値(c÷60)			18	分散(f÷60)			67.73
				標準偏差			8.23

問9：①40 ②50 ③**60** ④70

最大の階級までの累積度数はデータ数に等しい。

問10：①3 ②**6** ③9 ④12

度数は（この階級までの累積度数）－（直前の階級までの累積度数）＝ $52 - 46 = 6$ である。

問11：①0.050 ②**0.100** ③0.150 ④0.200

問10の結果から、相対度数は $6 \div 60 = 0.100$ である。

問12：①0.600 ②0.767 ③0.867 ④0.950

この階級までの累積度数が52であるから、累積比率は $52 \div 60 \approx 0.867$ である。

問13：①18 ②19 ③20 ④21

分布が対称であることを利用して平均を求めてもよいが、ここでは真面目に計算しておく。

$$\frac{2 \times 3 + 6 \times 5 + 10 \times 6 + 14 \times 10 + 18 \times 12 + 22 \times 10 + 26 \times 6 + 30 \times 5 + 34 \times 3}{60} = \frac{1,080}{60} = 18$$

問14：①62 ②65 ③68 ④71

問13と同様の計算をする（偏差2乗の平均を取る）ことにより、分散は次のように求められる。

$$\frac{(-16)^2 \times 3 + (-12)^2 \times 5 + (-8)^2 \times 6 + (-4)^2 \times 10 + 4^2 \times 10 + 8^2 \times 6 + 12^2 \times 5 + 16^2 \times 3}{60} = \frac{4,064}{60} \approx 67.733$$

問15

ある中学校3年生のクラス25名の数学の中間試験の得点を基に次の度数分布表を作成した。階級の読み方は、階級“40～50”を例にとると「40点以上50点未満」を意味する。

階級	30～40	40～50	50～60	60～70	70～80	80～90	90～100
度数	1	4	8	7	2	2	1

次に、このクラスの生徒A, B, Cに度数分布表を見せ、クラス全員分の生データに基づいて計算した試験の平均点を予想させた。その結果は次の通りである。

A: 58点

B: 69点

C: 65点

このとき、度数分布表と整合的な生データの平均点を予想したのはA, B, Cのうち誰か、以下から一つ選んで解答せよ。

- ① Aのみ ② Bのみ ③ Cのみ ④ AとB ⑤ AとC ⑥ BとC
 ⑦ A, B, C全員 ⑧ 一人もいない

講義で説明した途中計算を書き加えた度数分布表は次のようになる。

階 級		度数	延 べ	
30 ~	40	1	30 ~	40
40 ~	50	4	160 ~	200
50 ~	60	8	400 ~	480
60 ~	70	7	420 ~	490
70 ~	80	2	140 ~	160
80 ~	90	2	160 ~	180
90 ~	100	1	90 ~	100
合 計		25	1,400 ~	1,650
平 均		-	56 ~	66

この表から、生データの平均点は56点以上66点未満の範囲にあることがわかり、AとCの予想がこの範囲に含まれる。